



VJU
Vietnam Japan University
VNU since 1906

【日越大学メールマガジン Vol.19 2018年12月号】

日越大学は、日本とベトナムの両政府により、両国の友好と結束の象徴として新たに設立された大学で、2016年9月にベトナム・ハノイで開校しました。現在修士課程に2期生82名、3期生80名の学生が在籍し、共通科目の日本語と英語の習得に加え、地域研究(MAS)、企業管理(MBA)、公共政策(MPP)、ナノテクノロジー(MNT)、環境工学(MEE)、社会基盤(MIE)、気候変動・開発(MCCD)の各専攻プログラムを勉強しています。



【今月のトピックス】

1 日越大学ニュース

JICA 運営指導調査団来学

12月2日～8日の期間で、運営指導調査団（団員：宮城兼輔職員、榊美菜職員、谷口邦生国際協力専門員）が来学しました。

今回の調査目的は、(1) 円滑かつシームレスな次期技術協力プロジェクト(以下、TC2)の立ち上げに向けたベトナム側関係機関（日越大学、ベトナム国家大学ハノイ校(VNU)、ベトナム政府）との協議、及び、(2) 大学の運営体制強化に向けた情報収集、及び今後の対応に係る日越大学等関係者との協議でした。

TC2の立ち上げについては、日越大学幹部、VNU 幹部、投資計画省 (MPI)との協議では、現行の技術協力プロジェクト (TC1)終了後、継ぎ目なく、2020年4月からTC2を開始できるよう、ベトナム政府からの早期要請書の提出、日本政府による承認に向けて、お互いに協力しながら、その手続きを進めていくことが合意されました。

また、大学の運営体制強化に向けた情報収集では、谷口専門員による26名におよぶ日越大学幹部、専任教員及び長期教員専門家等への精力的なヒアリングがおこなわれ、現状の課題、今後の対応についての方向性を整理することができました。

日越大学支援大学コンソーシアム準備会合の開催

12月18日（火）、日越大学と協働しベトナムにおける人材育成を推進するため、日本側で日越大学との協力に関心を持つ13大学が集まり、コンソーシアム準備会合が開催されました。

古田学長から日越大学の現況について説明があり、2035年に向けてのビジョンが共有されました。日本側支援大学からは、2020年9月の学部設置に向けた積極的な提言が出され、活発な意見交換が行われました。

日越大学修士課程幹事大学会議の開催

12月18日(火)日越大学の修士課程を支援する7校の日本側支援大学(幹事大学)が集まり、JICAとの意見交換が行われました。JICAからは2020年3月に終了する予定の現行の技術協力プロジェクト(TC1)後の展望等について概要説明がありました。また、日越大学からは来年のASEAN出身留学生を対象とした奨学金についての情報共有がおこなわれました。

会社説明会シリーズの開催

日越大学学生の日本企業への理解の深化、就職意識の促進を目指し、10月から12月にかけて、毎週企業代表者や人事担当者をお招きし、会社説明会を行いました。合計9社の日系企業・ベトナム企業にご参加いただき、各会20名ほどの学生が参加しました。学生は、これまで知らなかった様々な企業の活動、ビジネスモデルに触れることができ、卒業後の進路について広く考える機会となりました。

[日越大学 HP] <https://vju.ac.vn/en/news/all/how-to-be-a-global-staff>

ハノイ人文社会科学大学とVJU共催によるワークショップ「浅羽佐喜太郎記念碑―日越交友の新しいシンボル」の開催

12月19日にシンポジウム「浅羽佐善太郎記念碑―日越友好の新しいシンボル」が、ハノイ人文社会科学大学(以下、人文大)と日越大学の共催により、人文大にて開催されました。

近年、日越交流が更なる発展を迎えるなかで、その新たなシンボルとして取り上げられるようになった浅羽は、19世紀後半の仏領インドシナで独立を目指すために訪日した多くのベトナム人志士たちの生活を民間レベルで支援した人物です。

シンポジウムでは、浅羽の偉業を語り継ぐために活動してきた浅羽ベトナム会代表の安間幸甫氏が基調講演し、日越史におけるその重要性を改めて強調しました。人文大からは学長、副学長をはじめ、東洋学部教員と多数の学生たちが、また日越大からは地域研究プログラムの教員が参加し、活発に意見交換がなされるなど盛況な会となりました。



国際ワークショップ「東南アジア気候変動適応研究拠点ネットワーク」の共催

12月22日、日越大学にて”Southeast Asia Research-based Network on Climate Change Adaptation Science (SARNCCAR)”と題した国際ワークショップが茨城大学地球変動適応科学研究機関と日越大学の共催で開催されました。

同ワークショップはJSPS研究拠点形成事業(2018~2020年度)の一環として実施されています(<http://www.icas.ibaraki.ac.jp/research/e-asia-adaptation2018-20/>)。ワークショップには日本、ベトナム、タイ、フィリピンからの様々な分野の研究者およびMCCD学生ら総勢53名が参加し、熱い議論が交わされ

ました。

またその前日にはエクスカージョンツアーが企画され参加者はNam Dinh省沿岸部を訪問しました。午前はそれぞれの国や地域での気候変動適応に関する研究および活動報告がポスターセッション形式にて行われ、20件の発表の内、MCCD学生からも3件の発表がありました。午後は3つのタスクグループ（「自然災害」「適応と緩和」「環境」）に分かれ、今回のワークショップからインターローカルに何を学びどう生かすのかをテーマに、ラウンドテーブル形式での集中的な議論が行われました。

本ワークショップを皮切りに、気候変動適応研究の東南アジア研究者ネットワークが始動し、日越大学はその重要拠点の一つとして機能していくことになります。ここから新たな共同研究や協働の取り組み、また共著論文等ができていくことが期待されます。



博士進学及び奨学金説明会の開催

12月20日に、日本での博士進学を検討・希望する学生を対象とした、博士進学と奨学金説明会を開催しました。

日越大学では、第一期56名の修了生のうち9名が奨学金付きの博士留学の機会を得ることができ、その中の6名が日本国政府奨学金（大使館推薦・大学推薦）に採択されており、学生の博士留学への関心と、奨学金獲得に向けた意欲は高まっています。

当日は、2期生や3期生を中心に30名以上が出席し、日本の大学事務経験を持つJICA専門家から、日本側教員とのコンタクトの取り方や奨学金の申請方法についてなど、詳しい説明を受けるとともに、活発な質疑応答がありました。

タイの2大学からの訪問団受け入れ

日越大学では、12月6日に、タイの仏教系有力大学 Mahachulalongkornrajavidyalaya University（マハチュラロンコン ラジャヴィジャラヤ大学）から、82名の学生・教職員訪問団を受け入れるとともに、20日には、タイ東部の有力大学 Ubon Ratchathani Rajabhat University（ウボン ラチャタニ ラジャバト大学）からの35名の学生・教職員を受け入れ、日越大学の設立から現在の修士課程、また将来構想について紹介しました。



マハチュラロンコン ラジャヴィジャラヤ大学



ウボン ラチャタニ ラジャバト大学

津島淳衆議院議員、武部新衆議院議員の来学

12月27日、津島淳衆議院議員、武部新衆議院議員、及び関係省庁職員、更に在ベトナム大使館、JICAベトナム事務所からそれぞれ本学にお越しになりました。当日、津島先生、武部先生は過密スケジュールのなか、空港から直行で本学にお越し頂きました。

まず、古田学長から本学についての概要説明がおこなわれ、その後、本邦における大学制度の見直しに関する勉強会にも参加されるなどご尽力頂いている津島先生からベトナムの教育の現状について、日越大学日本学部の概要・将来的展望等に関する質問がありました。更に津島、武部両先生から政治的側面からも本学をフォローしていきたいという力強いお言葉を頂戴しました。



2 日越大学第三期生へのインタビュー

今年9月10日に希望に胸を膨らませて、本学の門をくぐった、7プログラム80名の第3期生を迎え、外国人新入生の声をお伝えしています。

第3回目は、初となるナイジェリアからの留学生として日越大学で学んでいる、Alayande Kunle Samuel (サミュエル)さんと Oladele Adedayo Honour (オーナー)さんです。サミュエルさんは公共政策プログラム、オーナーさんは環境工学プログラムに在籍しています。

Q (VJU) : ベトナムにはどのような経緯で来たのですか？

A (オーナー) : ナイジェリアで通っていた学校でベトナムの FPT 大学の学部課程を紹介してもらいました。ナイジェリアからベトナムは非常に遠いですが、学費が安かったのと学校の紹介で査証手続きも難しくなかったので思い切ってベトナムに来ました。ベトナムには4年いますが、まだベトナム語はできません・・・

Q (VJU) : 日越大学での生活はどうか？

A (サミュエル) : 授業のスケジュールが非常にタイトです。また、内容はとても専門的でレベルが高く、難しいですがとても面白いです。

日越大学の教育環境は非常に整っていると思います。

Q (VJU) : 日越大学はどのようにして知ったのですか？

A (オーナー) : 学部時代からベトナム国家大学ハノイ校の学生寮に住んでいました。寮の友人に日越大学の職員がいて紹介してもらいました。

奨学金が充実していたのと、プログラム内容が魅力的



(オーナーさん)



(サミュエルさん)

